



第126号

発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 治  
 森山明  
 編集人 会報編集委員 長  
 勝山一男  
 印刷所 須坂新聞社

# 豊かな感性を伸ばす

## 第十二回教育懇談会開催される

六月二十五日、教育会館において会員六十余名参集のもと、第十二回教育懇談会が開催された。全体会の席上、森山会長は「感性豊かな子供たちに対応し、即応していくために、今私たちに必要なことは、本音で語る事だ。自分を裸にすることによって、始めて無垢な子供たちに対応することができると強調された。引き続き、三つの分散会に分かれ、①教育実践の悩みを語りながら、実践を深めるための研修のあり方を考える。②現下教育上の問題点(非行、登校拒否、いじめ等)とその背景を明らかにし、教師のあり方を考える」のテーマのもとで懇談が進められた。各分散会では、悩みながらも現状を分析し、より適切な指導、援助の方法を求めて誠実に真剣な話し合いが持たれた。柔かい感性を受けとめるため不断の努力、研鑽が必要だという認識に立つ先生方の真摯な姿が印象的であった。

(記 山岸)

# 自立心、優しさ、学ぶ喜び

宮下 芳一

一、学級編成替えと学級観  
 児童一名の増減で学級は四十五名になったり三十名になったりする。多数の陰に隠れて目立たなかった子たちもみられ、活躍の場がふえたり指導の手が入り易いという利点が感じられた。が、現在の仕組では一名減による再編成もやむを得ない状況である。

二、不登校生と家庭との連携  
 五月半ばから不登校のA子がいる。担任なりに原因を家庭や友人関係に求めようとして、A子なりのペースを認めようとしながらも、「何が

# 子どもをとらえる

## むずかしさ

柳沢 寿美子

六月二十五日、二つのテーマを与えられ、発表した内容をまとめると、次の通りです。

一、教育実践の悩みと、実践を深めるための研修のあり方を考える。

教育実践の悩みは、行事や会議が連続したり、土曜日の午後拘束されることが多い中で、子供をよくつかみ、かわっていくことの難しさ。

# グチるより高い見識を持ちたい

坂本 邦夫

「よい子」に育てようとする担任の尺度で早急に望む姿にしたいという思いが、他の子への影響を忘れさせるように思われる。子供たちの「自立心」「優しさ」「学ぶ喜び」を柱に、学級通信の充実をはかり、家庭との連携の在り方を模索している。

(井上小)

六月二十五日、二つのテーマを与えられ、発表した内容をまとめると、次の通りです。

一、教育実践の悩みと、実践を深めるための研修のあり方を考える。

教育実践の悩みは、行事や会議が連続したり、土曜日の午後拘束されることが多い中で、子供をよくつかみ、かわっていくことの難しさ。

研修についての願いは、いつも同じメンバーで同じ悩みを出し合うのではなく、多様な立場の考えに触れる機会や、悩みを解消し改善できる方向がほしいこと。先輩との対話が大切で、コミュニケーションでできる雰囲気が必要なこと。

二、現下、教育上の問題点(非行、登校拒否いじめ等)とその背景を明らかにし、教師のあり方を考える。

考えられる背景は、見放された子供に感じさせるような周囲の態度、家庭環境の不幸、学級の人間関係など。

教師のあり方として考えられることは、子供をよく理解し、信頼関係を作ること。事後指導だけでなく、毎日の子供とのかわり方で指導していくこと。学級作りや家庭との連携を大切にいくこと。

(栗ガ丘小)

教職20年目で初めて教育懇談会に指名されて発表者になったので大変戸惑いました。そこで、私が述べた一部分について簡単に記します。

まず、小・中学校の先生方は、毎日多忙で、各種の会議が多く、授業の持ち時間が多く、児童生徒と自由に遊んだり、本音で話をする機会が少なく、また、学校または教育会等の行事が重点化・精選されないまま、伝統の名のもとに旧態依然とした行事が活性化されないまま、続いている。更に自分の明日の授業の基になる教材研究の時間が思うように取れない。また、折角子どもたちに書かせた作文や描画、日記やその他の作品を書かせっ放し、やらせっ放しに

なっていることも多く、個々の物に対して、子ども一人ひとりの顔を思い浮かべて、味わうことも少なくなった。等々の悩みやグチも多くなった。しかし、子どもたちは、勉強でわかるまでシゴカレルことは、何でもないだけでなくかえって、望んでいる。ただ教師がやってはならぬことは教師の推測や目見当、腰留めで、子どもを評価したり、指導してはならぬこと。あくまでも、事実を照らして、よい方向へ指導することだ。

「親」という字は、木の上に立って見ると書きますが教師ももっと見識の高い立場から指導したいと思った次第です。

(相森中)



懇談抄

第一分散会

司会 牧 應子 (旭ヶ丘小)
発表 宮下芳一 (井上小)
助言者 宮本経祥常任委員 (須坂小)

出席者

北村 孝 (栗方丘小)
本田 浩一 (小布施中)
北村 雅 (相森中)
小野 章 (仁礼小)
内藤 格 (日野小)
星野 泰志 (常盤中)
畔上 政治 (墨坂中)
外谷 悦夫 (日滝小)
竹内くみ子 (高山小)
大島 弘子 (須坂小)
中山 恭子 (日野小)
森下 和美 (豊丘小)
小見山佳子 (高山中)
加藤 康恵 (仁礼小)
森山明治会長 (森上小)
小林考助常任委員 (栗方丘小)

富澤慶吉幹事 (須坂小)
土屋義広副議長(常盤中)
発表者の発表のあと、次のような事が話し合われた。
○児童数が多くなると、子ども

の見取りが甘くなる。
○高校入試が目前にあり、学力のみで生徒を見て、気合を入れてしまう。出来る、出来ない子があるのは当然。他との比較でなく、本人との比較で、その子がその時間、いかに充実していたかを見る。
○良さを認めるところの無い



子ども、その子に可能な、出来る場を作ってやり、それを認めていく努力が必要だ。
○先生が子どもと遊ぶようになったら、遊べない子も遊べるようになり、学級にも張りがでてくるようになった。
助言者より
○子どもを、一人ひとり観察し、メモをし、継続し、時間をおいて見ていく。
○自分がエゴにならぬこと。
○無言の子も表現している。
○表面で子どもをとらえない。
○不合理な事が多いが、身近な人に明るく訴えていく。
○元気を失うことも多い。こんな時、例えば詩を読むとか青春を共にした友に電話するとか、何か、自分を元気づけるものを持ちたい。
○子どもと遊べる教師、その中から教室が変わってくる。教育の本道である。(記||田中)

第二分散会

司会 山崎 巖 (東 中)
発表 柳沢寿美子(栗方丘小)
助言者 坂上方一常任委員 (小山小)

出席者

有賀 泰司 (高山小)
島津 和平 (須坂小)
徳永 隆俊 (小山小)
臼井 哲 (豊洲小)
湯本恵里子 (森上小)
中野美佐子 (日滝小)
原 恵子 (井上小)
関 育代 (仁礼小)
久保田幸美 (高山小)
笠井 淳 (常盤中)
山口 隆司 (小布施中)
徳永 幸男 (墨坂中)
横田 啓治 (相森中)

第三分散会

司会 山口勝郎 (須坂小)
発表 坂本邦夫 (相森中)
助言者 池田悦次常任委員 (高甫小)

出席者

渡辺 武彦 (高山中)
有賀 宏道 (高甫小)
小伊藤 信 (栗方丘小)
宮下 正己 (東 中)
石井 光男 (森上小)
永井 博文 (旭ヶ丘小)
和田 邑吉 (小布施中)
海野 明美 (栗方丘小)
藤澤 洋子 (須坂小)
清水 真弓 (高甫小)
伊藤 美紀 (常盤中)
岩倉由美子 (小山小)
田所 道子 (相森中)

現在に至るまでの教職経験を通過して感ずる教育上の諸問題について発表者より提起があり、続いて具体的な悩みや

鶴田美恵子 (墨坂中)
黒岩英雄幹事 (高山小)
発表者から教育実践の悩みや現在の教育上の諸問題について出され、その後、出席者の討論に移った。
一、教育実践の悩み
ここでは主に研修の時間がなかなかとれないという悩みが出され、どのようにすれば研修の時間を作り出すことができるかという話を合

つた。特に上高井郡は行事が多過ぎて教材研究もままならず、教材研究に時間をとれば生徒との接触が薄れてしまうという悩みが多く出された。
時間を有効に使い、教材研究などではどこを重点的に教え

るかなど考える必要があるといった意見が出された。また行事など精選してもらいたいという願いも出された。
二、現在の教育上の諸問題
非行についての問題点が多く出された。上高井郡は非行件数が多いがその原因は何かという問題では小学校のうちから芽はあるが、それを大人たちは放っておいてしまう。やはり、小さな芽のうちにつ

みとってやる必要があるのではないかという意見が出された。また、一人ひとりを認めてやる必要があるという意見も出た。
助言者からは、子どもの気持ちを理解する態度、また、

教材研究では熱心さだけでなく工夫しようとする心がけが必要だという助言があった。(記||廣瀬)



た後、助言者の先生から、「忙しさの中味の検討」「会議や行事の意義のとらえ方と効率化」「現場における教師のあり方」について示唆された。(記||中嶋)

編集後記

第十二回教育懇談会特集号をお届けします。
日々の実践の中でぶつかる様々な問題や悩みを語り合う中で、より良い方向が見出されたものと思えます。
当日、基調提案をされ、忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。
「子どもの前にはいい顔で立ちたい」会長の印象に残るこ